

日本文化人類学会第 50 回研究大会

平成 28 年 5 月 28～29 日、南山大学におきまして日本文化人類学会第 50 回研究大会が開催されました。本拠点から 2 つの分科会に、代表および発表者として 1 名、発表者として 2 名、コメンテーターとして 1 名が参加しました。

分科会：「脱生業化時代における生業論の再検討にむけて」（代表者：尾崎孝弘・鹿児島大学）

卯田宗平：「トナカイ角の商品化と馴化技術の展開－中国大興安嶺のエヴェンキ族らの事例から」

池谷和信：コメンテーター

分科会：「贈与論再考」（代表者：岸上伸啓）

岸上伸啓：「マルセル・モースの贈与概念と狩猟採集民の分配－アラスカのイヌピアット社会を事例として」

藤本透子：「カザフスタンにおける喜捨の展開－神・死者・生者の関係に着目して」